

# 旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮 保存活用基本計画概要版

## 計画策定にあたって

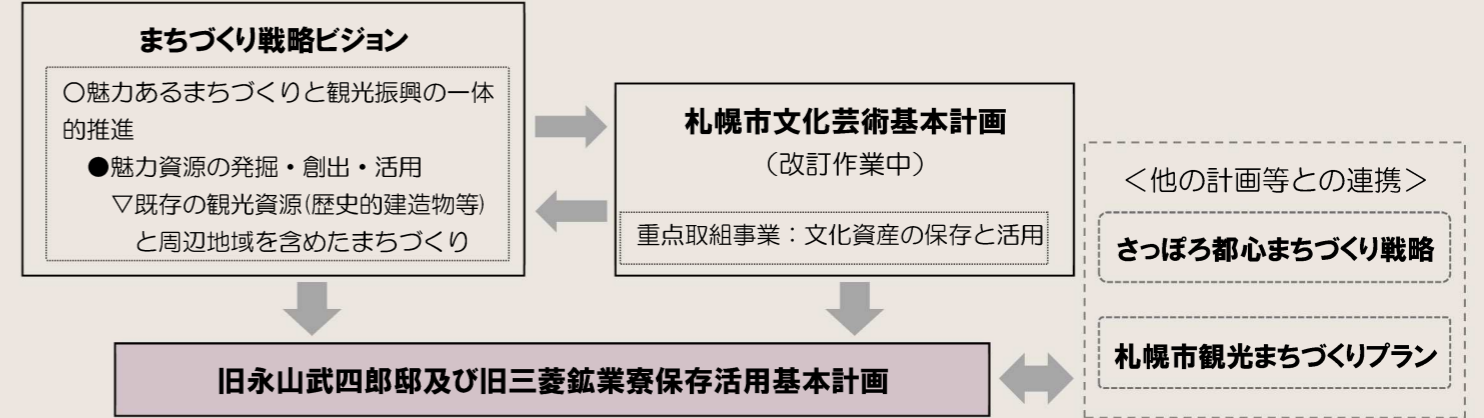
### 【背景・目的】

市内には、時計台をはじめ歴史的な建造物が文化財として保存・活用されていますが、これらの歴史的資産はその都市を特徴づける資源であり、これらを保存し活用することが、観光客はもとより、市民自らが誇りと愛着を持てる、将来的に持続可能な活力ある都市の基礎となります。

このような視点に立ち、50年後、100年後の将来も見据えて、時計台などに続く魅力ある文化資産の掘り起こしや保存・活用する事業が求められています。

本基本計画は、上述の状況を鑑み、旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮を、貴重な歴史的資産として後世に引き継いでいくとともに、新たな歴史観光文化スポットとして魅力を向上させるために、保存修理及び活用整備するための基本的な方針を示すことを目的とします。

### 【本事業の位置づけ】



## 現状と価値

### 【施設のあゆみ】

#### 「屯田兵の父」永山武四郎の私邸

▼明治 10 (1877) 年代前半  
永山武四郎が屯田事務局長時代に私邸として建設

▼明治 37 (1904) 年  
永山武四郎逝去



#### 三菱合資会社の炭鉱事業拠点施設

▼明治 44 (1911) 年  
三菱合資会社が永山邸を買収

▼昭和 12 (1937) 年頃  
(株)三菱鉱業セメントが現在の三菱鉱業寮部分を増築

▼昭和 60 (1985) 年  
建物を札幌市に寄贈・土地は売却

#### 観覧施設・記念公園に

▼昭和 62 (1987) 年  
旧永山邸を北海道有形文化財に指定

▼平成元 (1989) 年  
永山記念公園が設立

▼平成 18 (2006) 年  
旧永山邸の保全改修工事・可能な範囲を復原

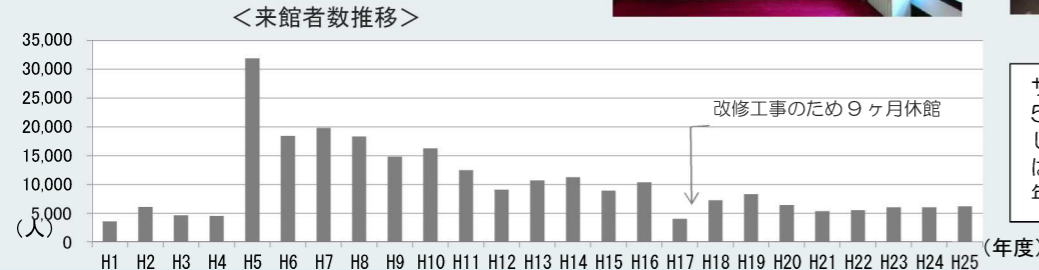
### 【歴史的価値】

#### <歴史的価値>

- ◆旧永山武四郎邸：明治前半期の北海道における上流住宅の好例
- ◆旧三菱鉱業寮：道内に現存する例の少ない民間企業保有のクラブハウス

#### <建築的価値>

- ◆明治前半期・大正昭和初期の時代様式を良く表す建築が共存
- ◆旧永山武四郎邸：明治前半期の和洋住宅様式の特徴
- ◆旧三菱鉱業寮：大正昭和初期のモダンな洋館のデザイン傾向
- ◆旧三菱鉱業寮：倶楽部として建てられた間取り・空間構成



サッポロファクトリー開業の平成5年には約3万2千人が来館しましたが、その後減少を続け、近年は横ばいとなっており、平成25年には6千人強となっています。

## 保存活用の基本方針

### 【保存活用の基本的方向性】

#### ◆ 旧永山武四郎邸は必要に応じた部分的修繕のみ実施

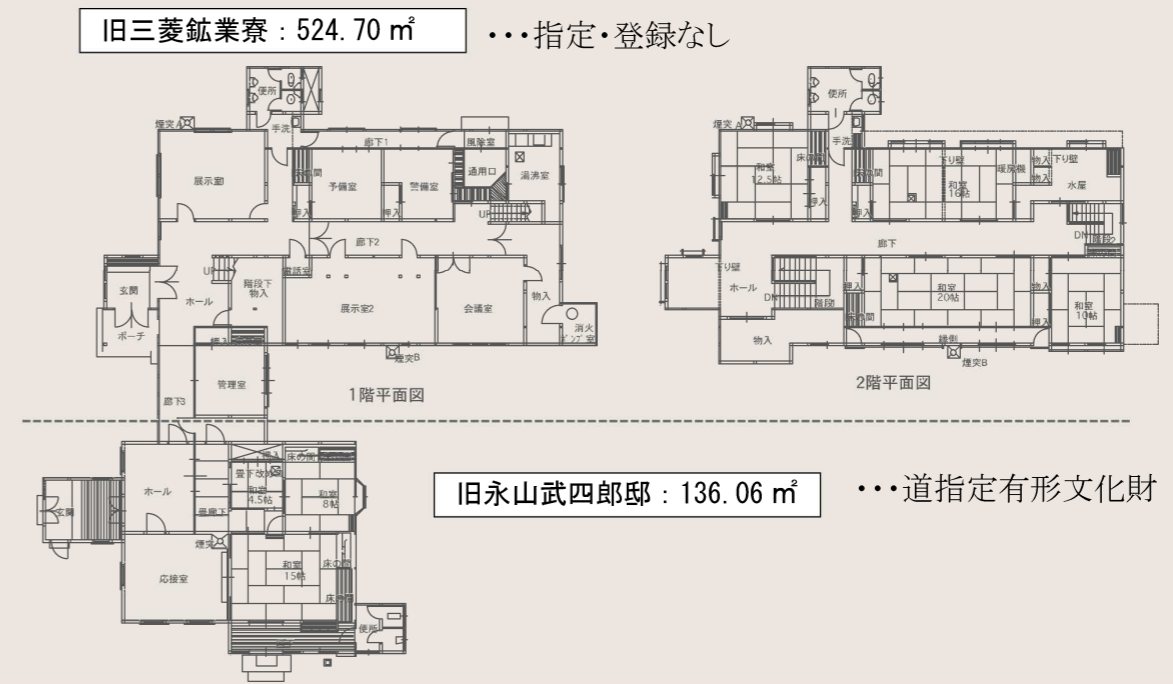
重要な文化財であることから保存管理を第一と考え、原則、現状に準じた公開施設として保存・活用を行うこととしたうえで、旧三菱鉱業寮と一体となった活用方法についても検討します。保存に当たっては、北海道指定文化財であるため、文化庁が示す「耐震予備診断」を行い、その結果「耐震性をおおむね確保しているとみなされる」と判断されたこと、また、平成17年度に大規模な保存修理工事を行っていることなどを鑑み、必要に応じて部分的な修繕のみ行うこととします。

#### ◆ 旧三菱鉱業寮は耐震改修を含む全面的な保存修理工事を実施

建築されて以来大規模な修理工事が一度もなされておらず、今後積極的な交流スペースとしての活用を図っていくに当たって、安全性の確保のため、耐震改修を含む全面的な保存修理工事を実施することとします。また、歴史的価値を継承していくために、改修後に国登録有形文化財建造物に登録申請することを前提とした改修とします。

#### ◆ 樹木・植栽等に配慮した改修

公園内に設置されている施設であることから、樹木など植栽に配慮しながら改修について検討することとします。



【活用の方針】

◆ 歴史的価値の確立と三位一体となった新たな活用

旧永山邸は原則観覧施設として活用し、**旧三菱鉱業寮は、インフォメーション機能、事業展開、多目的スペースを三位一体として新たに活用**します。その際、観光（WiFi 導入・多言語対応など）やまちづくり（創成東地区におけるまちづくりの取組との連携など）の視点を取り入れ、施設の特性を活かした機能や雰囲気を一元的に持たせることを前提とします。

札幌市及び周辺地区の歴史的資産のインフォメーション機能

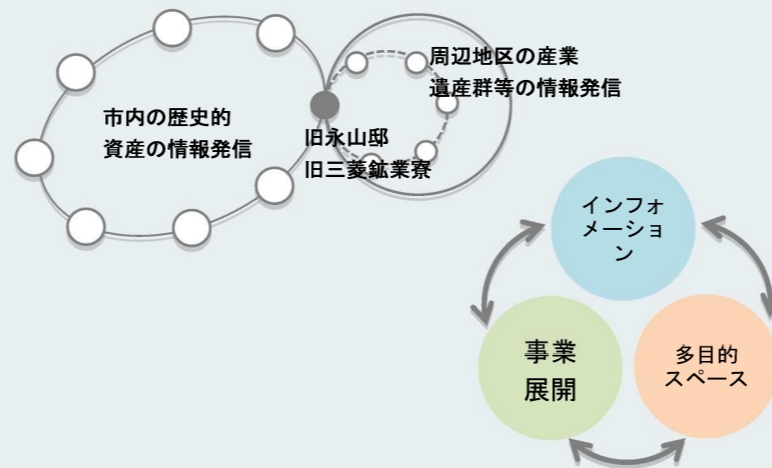
歴史的資産の情報発信拠点の一つとして、また、周辺地区の産業遺産等の情報発信の拠点施設としての位置付け

集客と地域の魅力向上につながる事業展開

利用者の利便性や施設の魅力向上と集客アップを図るため、歴史的な時間や空間を体感できる集客機能を導入（例：カフェなど）

多目的スペースとしての機能維持・向上

写真撮影・会合・ギャラリー・催し物（お茶・お花など）等を行える有料貸スペースや無料で利用できるスペースとして活用



【管理運営の方針】

現在は札幌市文化財課が清掃警備を委託し、観覧施設として管理運営を行っています。今後は、指定管理者による管理、目的外の使用許可、貸付など複数の管理運営方法を視野に入れ、施設の魅力アップと集客を図るために最も適切な方法について検討していくこととします。

【スケジュール概要】

- 平成 27 年度：基本実施設計
- 平成 28-29 年度：保存活用工事（期間中休館）
- 平成 30 年度：リニューアルオープン

参 考

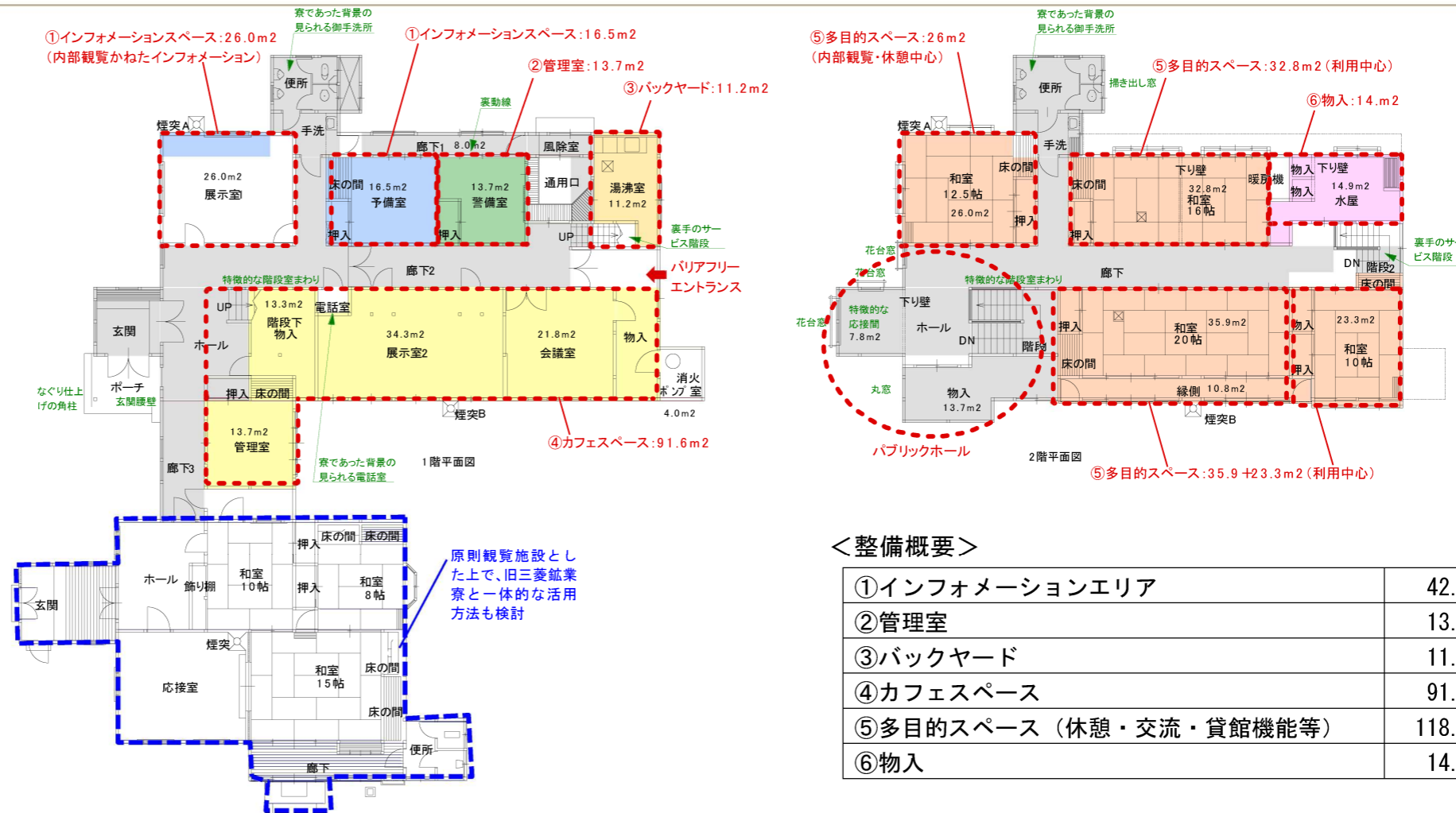
【活用のゾーニングイメージ例】

右図は活用方法について、参考としてイメージを表したものです。

このゾーニングイメージについては今後検討を経て確定させることとし、現段階で確定させるものとはしません。

今後は、具体的な活用方法やゾーニングの確定方法について、事業者からのヒアリングや市民の方々との意見交換を行うなどして、施設の魅力アップと集客を図るために最も適切な活用方法について具体的に検討していくこととします。

旧永山武四郎邸は、原則として観覧施設とした上で、旧三菱鉱業寮と一体となった活用方法についても検討していくこととします。



<整備概要>

①インフォメーションエリア	42.5m <sup>2</sup>
②管理室	13.7m <sup>2</sup>
③バックヤード	11.2m <sup>2</sup>
④カフェスペース	91.6m <sup>2</sup>
⑤多目的スペース（休憩・交流・貸館機能等）	118.0m <sup>2</sup>
⑥物入	14.9m <sup>2</sup>